

被爆80年・原水爆禁止2025年世界大会へのメッセージ

「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球の未来のために」をテーマとして、被爆80年・原水爆禁止2025年世界大会が、関係者のご尽力のもと盛大に開催されますことに敬意を表します。

本年は、1945年8月の広島・長崎の原爆投下から、80年の節目となります。失われた尊い命や、今なお続く被爆の苦しみと深い悲しみを思うと、二度と同じ惨禍を繰り返してはならないという強い決意を改めて胸に刻むものであります。

しかし世界に目を向けますとロシアのウクライナ侵攻は長期化し4年目となり、イスラエルによるガザ攻撃に加え、イスラエルのイラン核関連施設への攻撃によるイランの応報など、戦火が市民を巻き込み、尊い命と日常が失われることが今この瞬間にも起こっており、再び核兵器が使用される脅威が高まっております。

世界唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向け、平和の尊さと核兵器の悲惨さを、戦争を体験していない次世代に継承していく責務を強く自覚するとともに、当町も国際親善文化観光都市として世界の恒久平和に向けた取り組みを進めてまいります。

当町では明治時代から異文化を受け入れ協働してきた長い歴史があり、第二次世界大戦中には二千名を超える外国人が当町に疎開し、その食糧不足を町民が協力して改善した経緯があり、戦時下の厳戒態勢の中でも平和活動が行われていた場所です。

また、特別法により国際親善文化観光都市に指定され、世界において稀にみる美しい高原の保養地であり、国際親善に貢献した歴史的実績を有するため、国際親善と国際文化の交流を盛んにして世界恒久平和の理想の達成に資することなどを目的としています。

世界平和を願う軽井沢町民を代表して、被爆80年の節目である本大会が、核兵器のない世界の恒久平和の実現に向け、大きな一歩を踏み出すことを切に願っております。

令和7年7月1日

軽井沢町長

土屋 三千夫

